中　国

１　農・畜産業の概況

中国の国内総生産（ＧＤＰ）に占める農林水産業の割合は、７．５％（２０１８年）であり、低下傾向で推移しているものの、世界のＧＤＰ上位１０カ国の中でインドに次いで高い水準である。また、就業人口に占める１次産業従事者の割合は２６．１％（２０１８年）と高い（表１）。

中国の農林水産業の総生産額は、増加傾向で推移しており、２０１８年は、前年比３．９％増の１１兆３５８０億元となった（表２）。部門別の割合を１９８０年と比較すると、農業（耕種）は５４．１％まで減少した一方で、畜産業は２５．３％にまで増加している。

表１　農林水産業の地位

（単位：億元、万人）

区分／年	1980	1990	2000	2016	2017	2018	前年比（増減率）
GDP	4,588	18,873	100,280	743,586	827,122	900,310	8.8%
農林水産業	1,372	5,062	14,944	62,451	64,660	67,538	4.5%
割合（%）	29.9	26.8	14.9	8.4	7.8	7.5	▲0.3ポイント
就業人口	42,361	64,749	72,085	77,603	77,640	77,586	-0.1%
第１次産業	29,122	38,914	22,790	21,496	20,944	20,258	-3.3%
割合（%）	68.7	60.1	31.6	27.7	27.0	26.1	▲0.9ポイント

資料：中国国家統計局　「中国統計年鑑」

表２　農林水産業総生産額の推移

（単位：億元）

区分／年	1980	1990	2000	2016	2017	2018	前年比（増減率）
農林水産業	1,923	7,662	24,916	106,479	109,332	113,580	3.9%
農業(耕種)	1,454	4,954	13,874	55,660	58,060	61,453	5.8%
割合（%）	75.6	64.7	55.7	52.3	53.1	54.1	1.0ポイント
畜産業	354	1,967	7,393	30,461	29,361	28,697	▲ 2.3%
割合（%）	18.4	25.7	29.7	28.6	26.9	25.3	▲1.6ポイント
林　業	81	330	937	4,636	4,981	5,433	9.1%
割合（%）	4.2	4.3	3.8	4.4	4.6	4.8	0.2ポイント
水産業	33	411	2,713	10,893	11,577	12,132	4.8%
割合（%）	1.7	5.4	10.9	10.2	10.6	10.7	0.1ポイント
その他	0	0	0	4,829	5,353	5,865	9.6%
割合（%）	0.0	0.0	0.0	4.5	4.9	5.2	0.3ポイント

資料：中国国家統計局　「中国統計年鑑」
注：総生産額は名目値

近年の畜産物の家庭での１人当たり年間消費量を見ると、乳製品以外の畜産物は、都市部・農村部ともに消費量が増えている。しかし品目別に見ると、豚肉を除くすべての品目で農村部の消費量が都市部の消費量を大きく下回っている（表３）。これは豚肉が、中国における伝統的な食材であるため、都市部と農村部の消費量にあまり差がないが、国連食糧農業機関（ＦＡＯ）によると、都市部での所得向上による外食産業の普及しているためとしている。

表３　畜産物の家庭での１人当たり年間消費量

（単位：kg/人）

区分／年		2015	2016	2017	2018	前年比（増減率）
都市部	牛乳乳製品	17.1	16.5	16.5	16.5	0.0%
	牛肉	2.4	2.5	2.6	2.7	3.8%
	豚肉	20.7	20.4	20.6	22.7	10.2%
	家きん肉	9.4	10.2	9.7	9.8	1.0%
農村部	牛乳乳製品	6.3	6.6	6.9	6.9	0.0%
	牛肉	0.8	0.9	0.9	1.1	22.2%
	豚肉	19.5	18.7	19.5	23.0	17.9%
	家きん肉	7.1	7.9	7.9	8.0	1.3%

資料：中国国家統計局　「中国統計年鑑」
注：家庭での消費量であり、外食や加工品による消費は含まれない。

２　畜産の動向

（１）養豚・豚肉産業

豚肉は伝統料理で多く使われる重要な食肉であり、中国の食肉生産量の約３分の２を占めている。米国農務省によると、２０１８年の中国の豚肉生産量と消費量は、それぞれ世界の約半分を占めており、ともに第２位のＥＵを大きく上回っている。

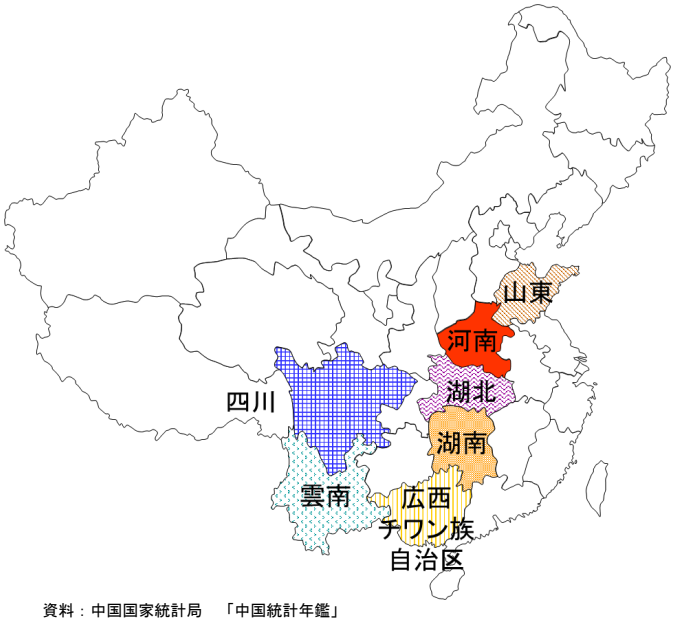
①　養豚の飼養動向

地域別に飼養頭数を見ると、山東省以南に多く、また、上位７省（自治区）で全体の５割以上を占めるなど、地域的に偏りが見られる（図１、２）。

飼養頭数は２０１２年以降、減少傾向で推移しており、２０１８年には４億２８１７万頭とされている（図３）。

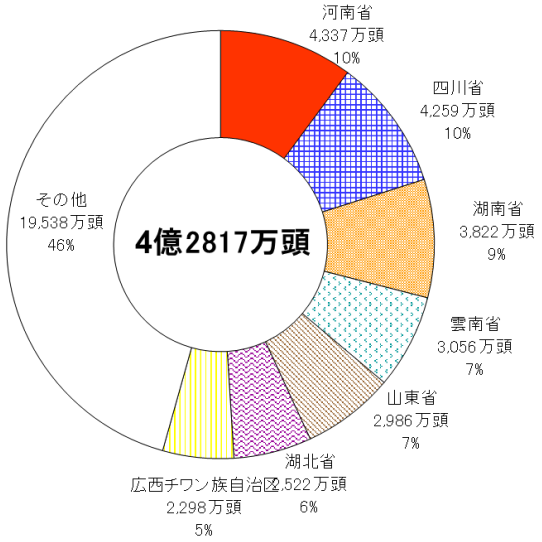
飼養農家の規模は、零細が極めて多く、年間出荷頭数が４９頭以下の農場が全体の９４．６％を占めている（表４）。

図１　豚飼養頭数上位７省・自治区



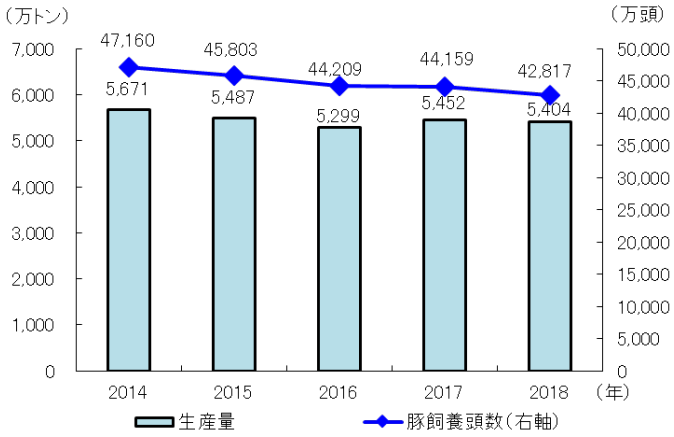
資料：中国国家統計局　「中国統計年鑑」

図２　省・自治区別豚飼養頭数　（2018 年）



資料：中国国家統計局　「中国統計年鑑」

図３　豚の飼養頭数と豚肉生産量の推移



資料：中国国家統計局　「中国統計年鑑」

表４　豚の出荷規模別の農場戸数　（2017 年）

（単位：万戸）

区分／規模	全体	1～49頭	50～99頭	100～499頭	500～999頭	1,000～2,999頭	3,000～4,999頭	5,000～9,999頭	10,000～49,999頭	50,000頭以上
戸　数	3,775	3,572	121	60.3	13.3	5.8	1.21	0.69	0.41	0.04
割　合	100.0%	94.6%	3.2%	1.6%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部「中国畜牧獣医年鑑」

②　豚肉の需給動向

豚肉の生産量は、２０１４年をピークに減少傾向で推移していたが、２０１７年以降は生産量、消費量とも横ばいで推移している。これは環境規制により、大規模経営を中心に事業拡大が進んだためであると考えられる。しかし、２０１８年にはアフリカ豚熱が発生し、一部地域で豚移動が制限されたため、生産量が減少した。

消費量は、人口増加や所得向上を背景に増加傾向で推移してきたが、２０１５年以降は減少している。これは、中国共産党の「中央八項規定」（いわゆる「倹約令」）が厳格に適用されたことで、接待需要などが減少したことが影響したものと思われる（表５）。

２０１８年の輸入量は、国内生産量の減少により、過去最高を記録した２０１６年から減少に転じて１４６万トンとなった。

表５　豚肉需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	5,821	5,645	5,426	5,452	5,404
輸入量	76	103	218	162	146
輸出量	28	23	19	21	20
消費量	6,155	5,566	5,498	5,593	5,530

資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」（生産量）、
USDA/FAS「PSD Online」（輸出入量）
注：枝肉重量ベース。

写真１　済南市内の市場での豚肉販売風景

④　その他

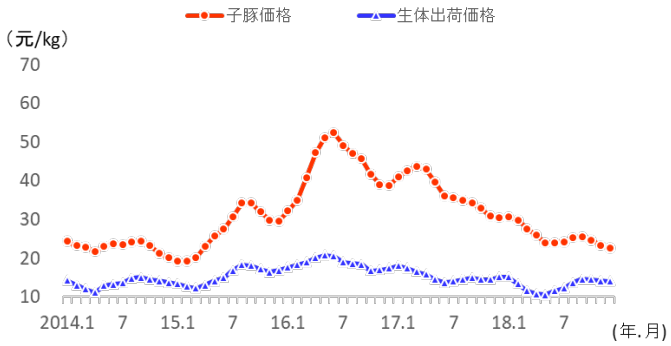
２０１８年８月に中国で初めてアフリカ豚熱の発生が確認され、その後、全３１省・自治区に拡大した。アフリカ豚熱の発生を受けて、多くの生産者において自身の農場でアフリカ豚熱発生時の損失を減らすべく、

③　豚肉の価格動向

生体出荷価格は、環境規制を背景に多くの生産者が養豚から撤退したことによる生産量減少のため２０１６年に過去最高水準に達したが、２０１７年以降は、前述の通り大規模経営を中心に事業を拡大する動きが見られたことから、２０１５年と同水準となった。

子豚価格は、２０１６年下半期以降、生体出荷価格と同様に下落が続いている。子豚価格は生体出荷価格と比較して、価格の振れ幅が大きいことが特徴である。これは、膨大な数の零細農家が市況を見て、急激に飼養頭数を増減させることが一因と言われている（図４）。

図４　子豚価格、生体出荷価格の推移



資料：子豚価格は中国農業農村部、生体豚出荷価格は中国国家発展改革委員会

写真２　北京市内のスーパーでの豚肉販売風景

子豚の導入を控えたことで、豚飼養頭数や豚肉供給量が大幅に減少した。このため、需給ギャップを埋めるべく２０１８年下半期には豚肉輸入量が増加するとともに、牛肉、羊肉や鶏肉などの畜産物への代替消費が進んでいる。

（２）酪農・乳業

中国の牛乳・乳製品の消費量は、人口増加や所得向上、健康志向の高まりなどを背景に増加傾向にあるが、２００８年に発覚したメラミン混入事件などにより、育児用調製粉乳を中心に、多くの消費者が輸入品を好むことが特徴的である。

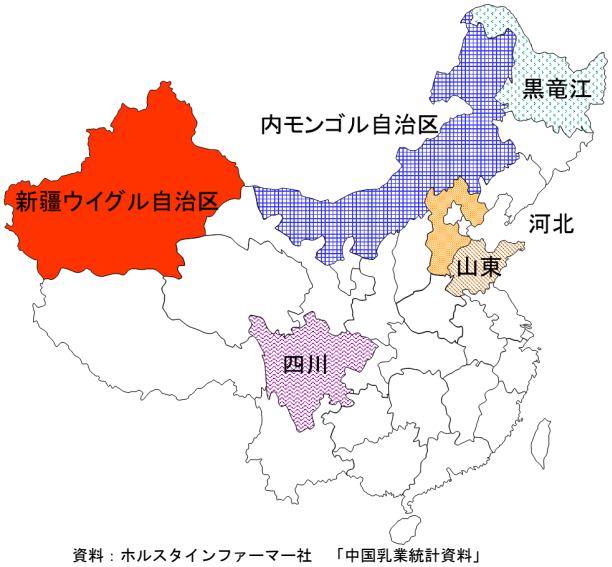
国連食糧農業機関（ＦＡＯ）のデータによると、２０１８年の中国の生乳生産量（水牛を除く）は世界第５位であり、全世界の４．６％を占める。

①　乳用牛および生乳の生産動向

地域別に飼養頭数を見ると、山東省以北で多く、上位６省・自治区で全体の約６割の頭数を占めている（図５、６）。飼養頭数は２００８年ごろまで急速に増加したが、それ以降は横ばいで推移し、２０１８年は、前年比３．９％増の１０３８万頭だった（図７）。

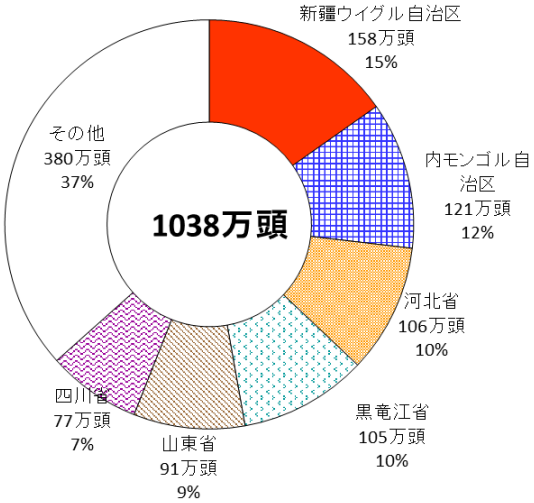
また、飼養農場の規模は、飼養頭数４９頭以下の農場が全体の９７．９％を占めている（表６）。

図５　乳牛飼養頭数上位６省・自治区



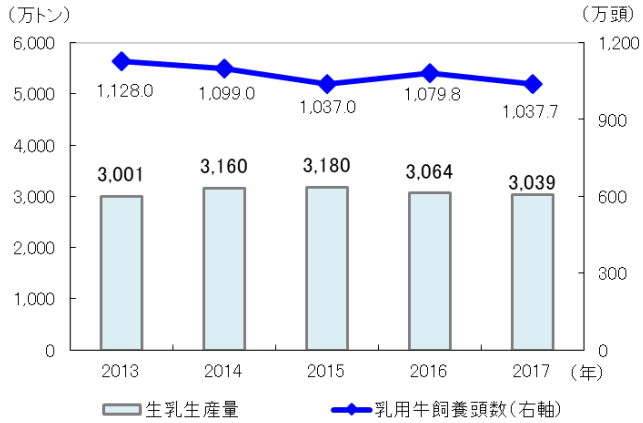
資料：ホルスタインファーマー社　「中国乳業統計資料」

図６　省・自治区別乳用牛飼養割合　（2018 年）



資料：ホルスタインファーマー社　「中国乳業統計資料」

図７　乳用牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」、中国農業農村部　「中国畜牧獣医年鑑」

表６　乳用牛の飼養規模別農場戸数（2018 年）

区分／規模	1～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1000～1999頭	2000～4999頭	5,000頭以上
戸　数	832.5	9.1	3.3	2.6	1.6	0.8	0.4	0.1
割　合	97.9%	1.1%	0.4%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%

資料：中国農業農村部「中国畜牧獣医年鑑」

②　牛乳・乳製品の需給動向

生乳生産量が横ばいで推移していること、また、２００８年に発覚したメラミン混入事件以降、国内の乳業メーカー各社が、特に育児用調製粉乳や高級ヨーグルトの製造時においては、国産原料の使用を敬遠していることから、輸入量は増加傾向で推移している（表７）。今後も輸入ブランドに対する消費者の信頼の高さなどによって増加基調で推移すると考えられる。

表７　乳製品輸入量の推移

（単位：万トン）

区分／年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
全粉乳	67	35	42	47	52
ホエイ	40	43	49	53	56
飲用乳	32	46	63	67	54
脱脂粉乳	25	20	18	25	28
育粉	12	18	23	30	33
クリーム	3.3	5.8	8.5	13.8	12.9
チーズ	6.6	7.6	9.7	10.8	10.8
バター	5.1	5.4	6.3	6.6	8.7
ヨーグルト	0.4	0.7	1.5	2.8	2.7

資料：USDA/FAS「PSD　Online」，「Global Trade Atlas」
注１：全粉乳、脱脂粉乳、飲用乳は USDA より。
　２：HS コードは、ホエイは 040410、育粉は 190110、クリームは 040150、
　　チーズは 0406、バターは 040510、ヨーグルトは 040310。

乳製品のうち全粉乳（育児用調製粉乳、還元乳やヨーグルト、アイスクリーム、焼き菓子などの原料として使われる）の需給を見ると、２０１８年の消費量は、前年比０．１％増の１８７万トンとなった。また、２０１３年から２０１４年にかけての国内需要の増加による大量輸入で在庫が積み上がっていたため２０１５年以降は輸入量が減少していたが、需給ギャップが解消されたため２０１８年の輸入量は５２万トンであった（表８）。主な輸入相手国はニュージーランドであり、同国はＦＴＡによる関税削減の恩恵を受けて（注）９割のシェアを占めている。

注：枠内税率は０．８％（２０１８年）。最恵国税率は１０％。詳細は「畜産の情報」（２０１６年９月号）のＰ．９５を参照。

表８　全粉乳需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	135	162	138	135	130
輸入量	67	35	42	47	52
輸出量	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2
消費量	185	191	199	187	187

資料：USDA/FAS「PSD　Online」

脱脂粉乳は、全粉乳に比べて消費量が少なく近年は回復基調にある（表９）。また、国内生産よりも輸入量が多いことが特徴的である。

表９　脱脂粉乳需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	4.9	4.5	4.0	3.0	2.0
輸入量	25.3	20.0	18.4	24.7	28.0
輸出量	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
消費量	30.0	24.4	22.3	27.6	29.9

資料：USDA/FAS「PSD　Online」

中国では、飲用乳の消費量は、２０１５年をピークに減少しており、２０１８年は３２９０万トンであった（表１０）。コールドチェーンが未成熟な同国ではロングライフ牛乳（以下「ＬＬ牛乳」という）が広く普及しているため、ドイツなど遠方の国からの輸入品も多く流通している。

表１０　飲用乳需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	3,880	3,905	3,762	3,189	3,225
輸入量	32	46	63	67	67
輸出量	3	3	2	2	3
消費量	3,909	3,949	3,823	3,253	3,290

資料：USDA/FAS「PSD　Online」

ユーロモニターインターナショナル社によると、小売販売数量は、フレーバーミルクが減少しているのに対し、牛乳とヨーグルト、チーズは増加しており、中でも、ヨーグルトとチーズの増加が著しい（表１１）。

牛乳は、販売量の８割弱をＬＬ牛乳が占めているが、中国では高品質とされている要冷蔵の牛乳の割合が増加傾向にある。

ヨーグルトは、急速に販売量が伸びている。中国では飲むタイプのヨーグルトが主流で、最近は、特に常温保存できる商品が地方都市や農村部に急速に普及し、ヨーグルト販売の拡大をけん引していると言われている。

チーズは、プロセスチーズが販売量の８割強を占め、外食で提供されるピザやハンバーガーなどの洋食の浸透をきっかけに消費が広がっている。なお、ナチュラルチーズの販売は少なく、さらにその３割強をクセのないモツァレラチーズが占めている。

表１１　主な牛乳乳製品の小売販売数量の推移

（単位：万トン）

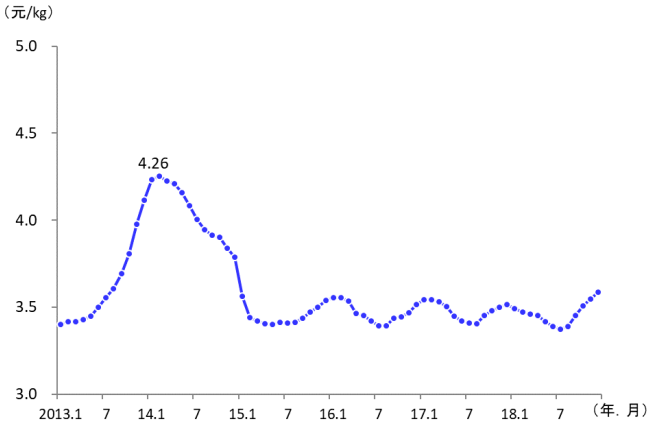
区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
牛乳	937	959	984	980	986
うちLL	741	752	765	749	741
うち冷蔵	196	207	219	231	245
ﾌﾚｰﾊﾞｰﾐﾙｸ	900	798	688	615	576
ヨーグルト	568	661	685	856	931
チーズ	2.2	2.7	3.1	3.5	3.8

資料：ユーロモニターインターナショナル社

③　生乳価格動向

生乳価格は、２０１３年夏の記録的な猛暑により生産が減少したため、同年後半から２０１４年初めにかけて上昇したが、その後下落し、２０１５年以降は安定して推移している（図８）。

図８　生乳の農場出荷価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要生産省・自治区（河北、山西、内モンゴル、遼寧、黒竜江、山東、河南、陝西、寧夏、新疆）における農場出荷価格の平均。これら 10 省・自治区で生乳生産の８割を占める。

④　販売風景

要冷蔵の牛乳の陳列は日本と同様だが、ＬＬ牛乳は、飲みきりサイズのものを１０～２０個程度（写真は１９０ml×１５個入り）まとめて厚紙で包装し、豪華なプリントを施した製品が多く売られている点が特徴的である（写真３）。

また、フレッシュミルクや飲むヨーグルトは、ビニールパウチに入った製品も多く販売されている（写真４）。

写真３　ＬＬ牛乳

写真４　飲むヨーグルト

（３）肉用牛・牛肉産業

①　飼養動向

中国で肉用牛の生産が始まったのは１９９０年代と言われており、それまでは牛は役畜として飼われていた。

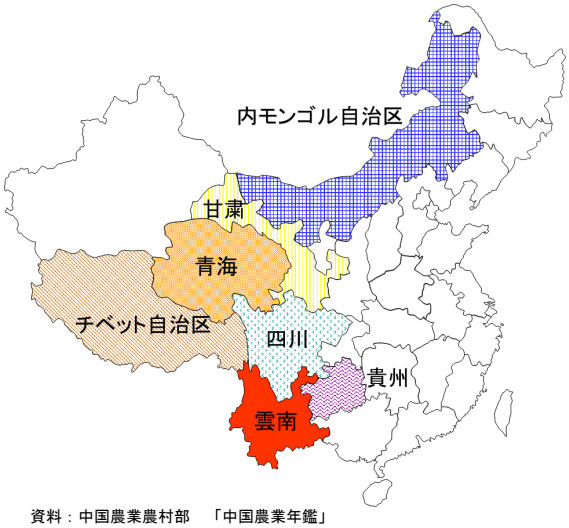
肉用牛として飼われているのは主に、黄牛（在来種）とシンメンタールの交雑種である。

地域別では、内陸部の飼養頭数が多く、上位７省・自治区で全体の５割強を占めるなど、偏在している点は他の家畜と同様である（図９、１０）。飼養農家は零細が極めて多く、年間出荷頭数が９頭以下の農場が全体の９５％を占めている（表１２）。

飼養頭数と牛肉生産量の推移を見ると、ともに増加傾向で推移しており、２０１７年の飼養頭数は６６１８万頭、２０１８年の牛肉生産量は６４４万トンとなった（図１１）。米国農務省によると、２０１８年の中国の牛肉生産量は、米国、ブラジルに次ぐ世界第３位（米国の約５割）であり、全世界の生産量の１割強を占めている。

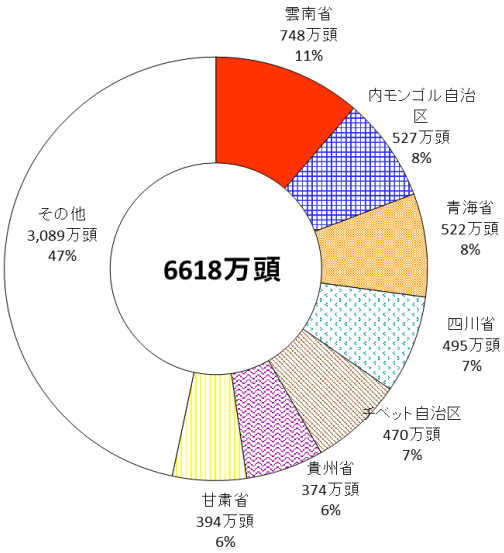
中国の牛肉消費は、イスラム教徒による消費が多いことから、ハラールの商品が多く売られているのも特徴である。

図９　肉用牛飼養頭数上位７省・自治区



資料：中国農業農村部　「中国農業年鑑」

図１０　省・自治区別肉用牛飼養割合（2017 年）



資料：中国農業農村部　「中国農業年鑑」

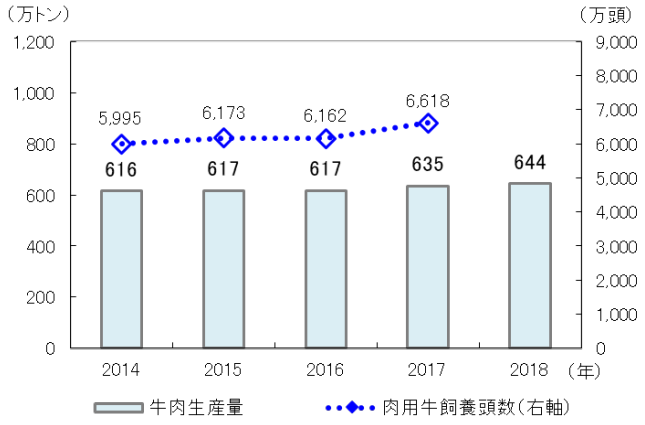
表１２　肉用牛の出荷規模別の農場戸数　（2017 年）

（単位：万戸）

区分／規模	全体	1～9頭	10～49頭	50～99頭	100～499頭	500～999頭	1,000頭以上
戸　数	941.4	898.1	35.4	5.7	1.9	0.3	0.1
割　合	100.0%	95.4%	3.8%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%

資料：中国農業農村部「中国畜牧獣医年鑑」

図１１　肉用牛飼養頭数と牛肉生産量の推移



資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」、中国農業農村部　「中国畜牧獣医年鑑」
注：2013 年～2016 年の飼養頭数は中国国家統計局の統計値から ALIC で推計。

②　需給動向

牛肉消費量は長期にわたって増加し続けており、２０１８年は前年比６．９％増の７８１万トンだった(表１３)。一方、国内生産は、２０１８年はわずかに増加したものの、需給ギャップを埋めるため、輸入量が急速に増えている。主な輸入相手国はブラジル（シェア：３割強)、ウルグアイ（同２割強)、アルゼンチン（同２割弱)、豪州（同２割弱）である。

なお、現地専門家の中には、相当量の非正規輸入品が流通しているとの見方があるが､詳細は不明である。

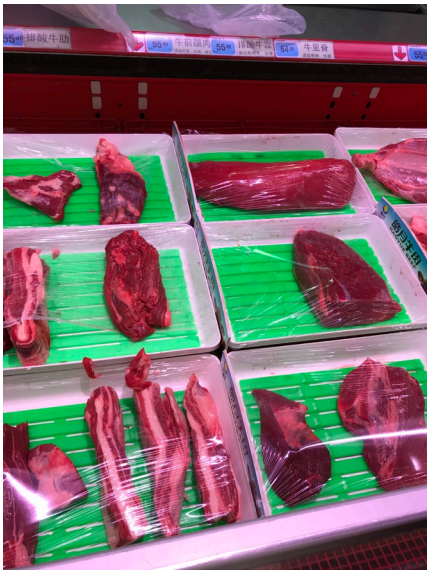


写真５　北京市内のスーパーでの冷蔵牛肉販売風景

表１３　牛肉需給の推移

（単位:万トン）

区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	616	617	617	635	644
輸入量	42	66	81	97	137
輸出量	3	2	2	2	2
消費量	654	681	696	730	781

資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」（生産量）、
USDA/FAS「PSD　Online」（輸出入量）
注：枝肉重量ベース。

③　価格動向

牛肉の卸売価格は、需要の拡大に伴って２０１４年に高水準となったが、２０１５年以降は輸入量の増加に伴って下降基調で推移、２０１８年には需要の高まりから上昇傾向で推移している（図１２）。

図１２　牛肉卸売価格の推移

資料：中国商務部
注：2015 年のデータは公表されていない

写真６　北京市内のスーパーでの冷凍牛肉販売風景。「清真」（ハラール）マークがついている商品も多い。

（４）肉用鶏・鶏肉産業

①　飼養動向

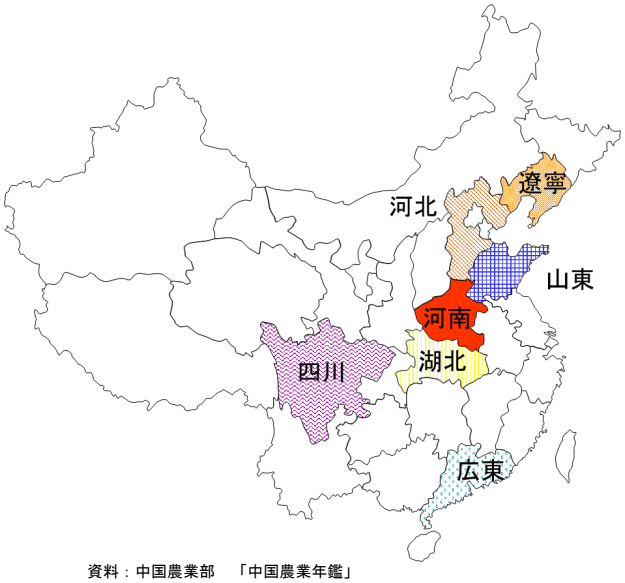
鶏肉は豚肉に次いで多く消費される食肉である。肉用鶏の品種は、約半数が海外品種（白羽肉鶏と呼ばれる）で、残りは在来品種（黄羽肉鶏と呼ばれる）や在来品種と海外品種の交雑種である。

地域別に飼養羽数を見ると、沿岸部で比較的多く、上位７省で全体の６割弱を占めている(図１３、１４)。家きんの飼養羽数は、国内での鳥インフルエンザ発生により２０１３年に一時的に減少したものの、その後は増加基調で推移している（図１５）。飼養農場の規模は、零細が多く、年間出荷羽数が２０００羽に満たない経営が９８．５％とかなりの割合を占めている（表１４）。

２０１８年の家きん肉の生産量は、前年比６．８％減の１１７０万トンであった（表１５）。米国農務省によると、中国の鶏肉生産量は米国、ブラジルに次いで世界第３位で、世界の生産量の９．４％を占める。

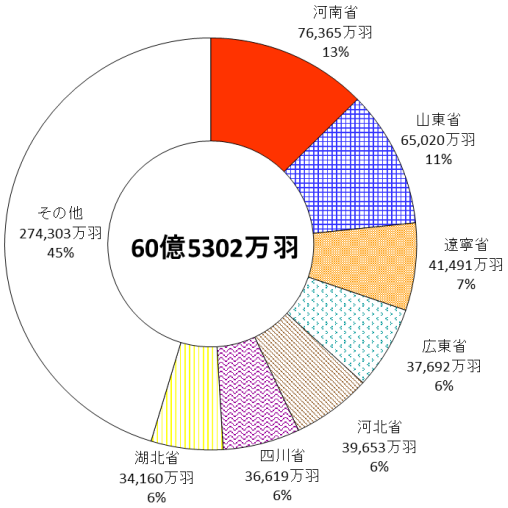
注：「家きん」はブロイラー（肉用鶏）や採卵鶏、アヒルなど。

図１３　家きん飼養羽数上位７省



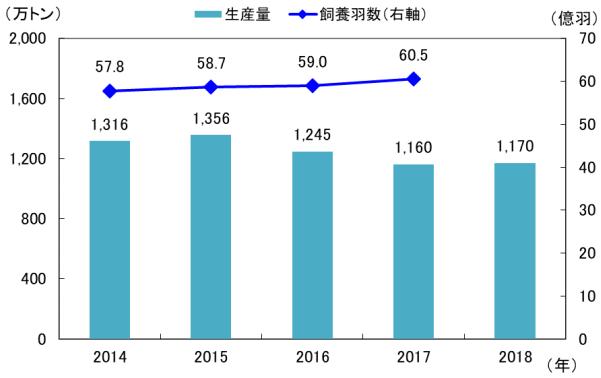
資料：中国農業部　「中国農業年鑑」

図１４　省・自治区別家きん飼養羽数　（2017 年）



資料：中国農業農村部　「中国農業年鑑」

図１５　家きん飼養羽数と家きん肉生産量の推移



資料：中国農業部　「中国農業年鑑」

表１４　家きん（肉用）の出荷規模別の農場戸数（2017 年）

（単位：万戸）

区分／規模	全体	1～1,999羽	2,000～9,999羽	1万～29,999羽	3万～49,999羽	5万～99,999羽	10万～499,999羽	50万～999,999羽	100万羽以上
戸　数	1,900.2	1,871.0	17.5	6.2	2.7	1.9	0.8	0.1	0.1
割　合	100.0%	98.5%	0.9%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

資料：中国農業農村部「中国畜牧獣医年鑑」

鶏肉の輸出は鶏肉調製品が中心である。主な輸出相手国は日本（８割）であり、２０１４年に発覚した消費期限切れ鶏肉の使用問題により２０～２０１６年の輸出量は減少していたが、２０１７年以降は回復した。（表１５）。

２０１６年１２月以降、国内でヒトへの鳥インフルエンザ（Ｈ７Ｎ９型）の感染が多数報告されたことを受け、政府は生体家きん市場を相次いで閉鎖した。これを受け、生体で販売できなくなった鶏は丸どりとして小売店に供給されたため、供給過剰により鶏肉の小売価格が一時的に低下し、その後は２０１６年を上回る水準まで回復した（図１６）。

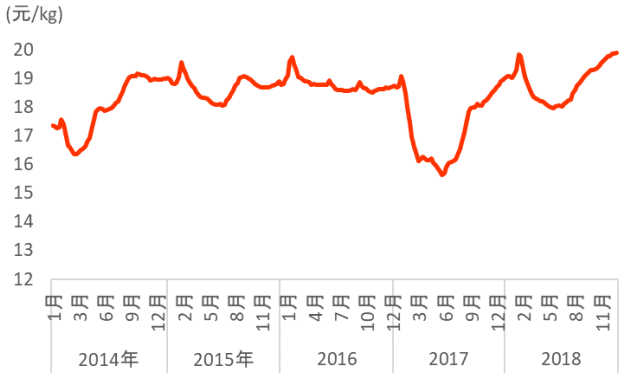
表１５　鶏肉需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	1,316	1,356	1,245	1,160	1,170
輸入量	26	26.8	43	31.1	34.2
輸出量	43	40.1	38.6	43.6	44.7
消費量	1,299	1,343	1,249	1,148	1,160

資料：USDA/FAS「PSD　Online」

図１６　鶏肉（丸どり）の卸売価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」

写真７　済南市内の市場での丸どり販売風景

写真８　済南市内の市場での生鳥販売風景

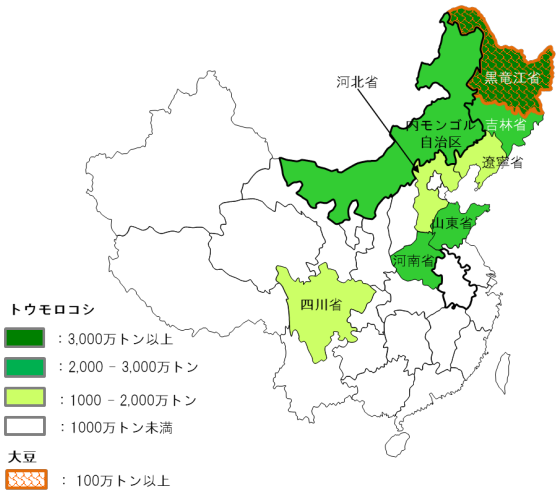
（５）飼料穀物

中国はトウモロコシを重要な作物と位置付け、需給の安定を図るため、穀物備蓄政策を実施してきた。しかし、近年、最低買付価格を保証する備蓄政策の実施や、トウモロコシやその代替作物であるコウリャン（ソルガム、マイロとも呼ばれる）の内外価格差などにより、在庫が積み上がっていたため、政府は２０１６年から他作物への作付け転換を促すとともに、同年４月にトウモロコシの最低買付価格の保証政策を廃止し、市場買い付けに移行した。

トウモロコシの国内生産量は、２０１６年以降、減少傾向で推移している一方で、飼料向けと工業向けが増加したことにより消費量が増加し続けている（表１６）。生産量を地域別に見ると、東北３省（黒竜江、吉林、内モンゴル自治区）で全体の３分の１、さらに上位１０省で約８割を占める（図１７、写真９、１０）。

一方で中国では、大豆を大量に輸入し、搾油後の大豆油かすが家畜飼料の原料として使われている。２０１８年度は生産量が８４１万トンであったのに対し、輸入量は８２５４万トンであった（表１７）

図１７　トウモロコシおよび大豆の生産分布（2018 年）



資料：国家統計局

表１６　トウモロコシ需給の推移

単位：万トン

年度	2014	2015	2016	2017	2018
作付面積（万ha）	4,300	4,497	4,418	4,234	4,213
総供給量	37,887	44,102	47,809	48,554	48,418
国内生産量	249,764	26,499	26,361	25,907	25,717
期首在庫	12,359	17,286	21,202	22,302	22,253
輸入量	552	317	246	346	448
総需要量	15,461	22,900	25,508	26,302	27,402
国内消費量	20,600	22,900	25,500	26,300	27,400
飼料向け	14,400	16,500	18,500	18,700	19,100
食用・工業向けなど	6,200	6,400	7,000	7,600	8,300
輸出量	1	0	8	2	2
期末在庫	17,286	21,202	22,302	22,253	21,016

資料：USDA/FAS PSD online
注１：生産年度は１０月～翌９月。
注２：総需要量＝国内消費量＋輸出量。

表１７　大豆需給の推移

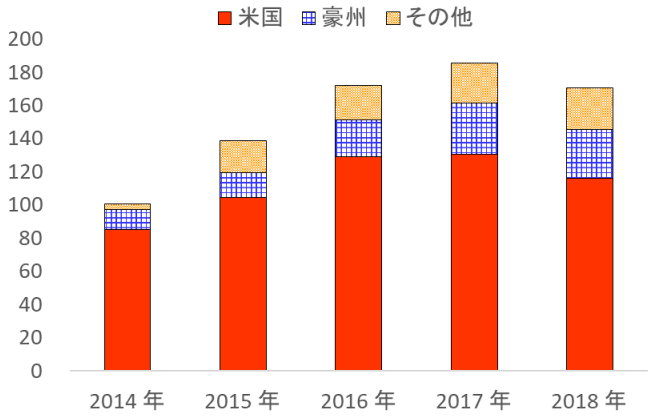
単位：万トン

	2014	2015	2016	2017	2018
作付面積（万ha）	710	683	760	825	841
総供給量	10,500	11,266	12,428	12,996	12,157
国内生産量	1,269	1,237	1,364	1,520	1,597
期首在庫	1,397	1,706	1,664	2,012	2,306
輸入量	1,397	8,323	9,350	9,410	8,254
総需要量	8,794	9,601	10,361	10,643	10,212
国内消費量	8,780	9,590	10,350	10,630	10,200
飼料向け	270	320	360	390	410
工業向け	7,450	8,150	8,800	9,000	8,500
食用向け	1,060	1,120	1,190	1,240	1,290
輸出量	14	11	11	13	12
期末在庫	1,706	1,664	2,012	2,306	1,946

資料：USDA/FAS PSD online
注１：生産年度は１０月～翌９月。
注２：総需要量＝国内消費量＋輸出量。
注３：搾油向けは「工業向け」に含まれる。

また、乳牛の飼料として、アルファルファの輸入量が増加基調にある（図１８）。なお、アルファルファはほとんど乾草であり、ミールやペレット状のものは少ない（写真１１）。

図１８　アルファルファの輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：ＨＳコードは１２１４。

写真９　吉林省で生産されたトウモロコシ

写真１０　製造された配合飼料の運搬風景

写真１１　天津市に輸入されたアルファルファ